

風土記

第31回

THREE NINE CLUB (栃木)

2001年に栃木県鹿沼市で創部されたクラブは、若者に夢を与えるため、高校・大学卒業後の競技の場を提供しながら、地域の子もたちに野球教室を通じて、野球の楽しさを伝えている。そして創部から15年が経ち、新たな活動の循環が始まった。

取材・構成/根本賢一

すべてに感謝の心を

現在、THREE NINE CLUBの部長を務める栃木県鹿沼市育ちの嶋田和典は、高校生ときには甲子園出場を目指し宇都宮工高へ進学したが、その夢を叶えることはできなかった。卒業後、母校の後輩たちが甲子園へ出場した姿を見て、もう一度夢を追いかけてみたいと思い全足利クラブに入部した。5年間在籍し、2度の全日本クラブ選手権優勝の喜びを味わうことができたが、それ以上に市民から支持されるクラブでプレーできた経験から、生まれ育った鹿沼市で野球を通じた地域活性化に取り組みたいと思い、2001年に現在監督を務める飯塚貢市と共に、THREE NINE CLUBを創部した。挫折もあ

ったが社会人まで硬式野球を続け、夢を叶えた経験から、クラブの活動理念は「夢・目標を持ち、達成に向け忍耐力・努力を身につけ、達成したときの喜び・素晴らしさを地元の若者に伝えること」とした。

チーム名は、「エラーをしても次のダブルプレーを取るためのエラーであった」と常に前を向き、失敗や挫折に対しても感謝できる心を養うため、39（サンキュー：感謝）=THREE NINE CLUBとした。選手たちは社会人になっても鹿沼市で硬式野球を継続できるこの環境に感謝し、競技活動に取り組んでいる。

11年に入部した鹿沼農高出身の高山太一外野手は、左腕から力強いボールを内野へ返球しているが、以前は右投げだった。高校1年生の夏

▶全足利クラブでプレーした嶋田部長



に右ヒジを痛め、利き腕で投げられない大きな挫折感があったが、野球を継続するため左投げに転向することを決意した。大きなハードルであったが、その目標に向け努力することを前向きにとらえていたため、あまり苦にならなかったと振り返る。左投げとなり迎えた3年生最後の夏は、県大会2回戦で国学院栃木高に敗退したが、高校野球を全うし、ハードルを乗り越えた達成感を得た。

THREE NINE CLUB入部後、さまざまな球歴の選手から技術を学び、多世代とのコミュニケーションから野球だけではなく社会的な視野を広げ、「高校までに教わっていないことを学んでいる。このクラブで得られることが多く、自分が変われると思う」と言う。クラブの名称のとおり、後援会からの支援、挫折を克服した経験などすべてに感謝する姿勢から主将を務めている。

新たな地域への貢献

高山主将を含め、同じ中学校で軟式野球部に所属していた5名の選手がTHREE NINE CLUBと一緒にプ



▶ミテイングにより、新たな野球スタイルを確立する
◀大きなハードルを乗り越え、常に前向きに取り組む高山主将



レーしている。中学校卒業後、それぞれ違う高校に進学したが、再びこのクラブと一緒にプレーすることになった。そのうちの一人、飯塚伸幸捕手は、高山主将とは異なり高校3年の夏の大会は、選手との接触から脳震盪を起こし救急車で運ばれ、完全燃焼できなかった苦い思い出がある。現在は新たな目標を持ち、小学校の先生として教壇に立ちながら硬式野球を継続している。目標は全日本クラブ選手権出場と企業チームからの勝利。鹿沼市で生まれ育った彼らのそれぞれの思いが、仕事との両立を図りながら充実した日々を送る原動力となっている。

THREE NINE CLUBは、野球を通じた地域活性化のため、創部した

年から毎年12月初旬に鹿沼市の学童チームを対象に野球教室を開催している。野球を地域に根付かせ、交流や活性化を目的としているため、他チームの選手とのキャッチボールやリレーなど、子どもたちが楽しめる内容となっている。

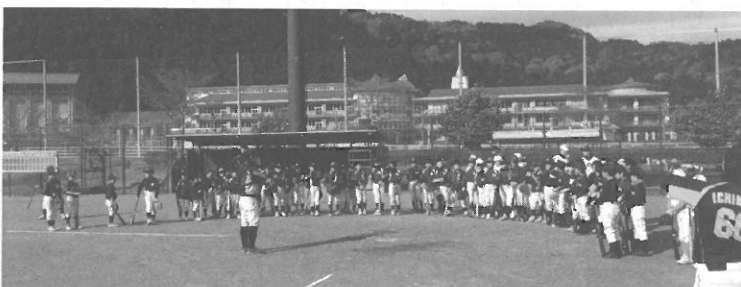
実際に高山主将と飯塚捕手も小学生のときにこの野球教室に参加し、社会人選手とのコミュニケーションから地元の硬式野球クラブの存在と野球の楽しさを知るきっかけとなった。飯塚捕手は「創部から15年が経ち、創部時のメンバーがクラブから毎年離れている。今度は、自分たちがリーダーとして取り組む番になった」と言い、鹿沼市を活性化し地域に愛されるクラブとなるため、普

及活動だけではなく、野球以外の地域貢献活動への取り組みの必要性を感じている。

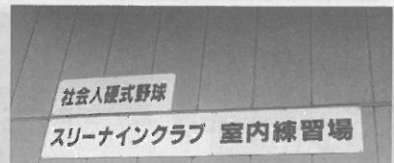
創部当初、練習場を確保するため閉鎖した工場を借り、建設関係者をはじめとしたさまざまな職業のメンバーが土を入れ、ネットを張り、手作りで室内練習場を整備した。その思いのバトンが次の世代へ渡されていく。

嶋田部長は「全足利クラブのときは、企業チームに勝てなかった。いつか都市対抗本戦に鹿沼市代表で出場し、地域の活性化に貢献したい」と若者だけでなく、自身も大きな夢を持ち続けている。

野球を通じて、夢・目標の大切さを知った鹿沼市の若者たちが、新たな夢を与えるTHREE NINE CLUBへと発展させていくであろう。



▲野球教室では、地域の交流と野球の楽しさを伝えている



創部メンバーで作りに上げた室内練習場

ねもとけんいち

1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉日大一高-日本大-龍球クラブ。現役時代は外野手で97年全日本クラブ選手権では準優勝を経験する。2007年熊球クラブ部長に就任。その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了。現在早稲田大学スポーツビジネス研究所 招聘研究員として活動中。

チームデータ&チームプロフィール

THREE NINE CLUB

所在地
栃木県鹿沼市加園923-1(飯塚指圧治療院内)

主な戦績
全日本クラブ選手権 北関東予選代表決定戦進出

スタッフ
部長:嶋田和典
副部長:浅田一彦
監督:飯塚貢市
助監督:小太刀悠介
コーチ:川又俊治、佐々木義之、砂田篤
マネージャー:江連恭子、新井杏果

部員数
39名

ホームページ
http://www.geocities.jp/three_nine_club/

栃木県鹿沼市を本拠地に2001年に創部。名称のTHREE NINEは、39=サンキュー(感謝)、図形の中で唯一つぶれない三角形、銀河鉄道のように夢を駅に例えて目標に取り組みクラブを目指すことに由来する。

鹿沼の若者に、夢を持つ大切さを伝えたい

